

## 第1学年5組 特別の教科 道徳学習指導案

- 1 主題名** 思いやりをもって仲間を大切にする [B一(6) 思いやり, 感謝] 6時間完了  
 教材名「席を譲ったけれど」 出典「中学道徳① きみがいちばんひかるとき」光村図書

### 2 道徳科のねらいとESDの視点

道徳科の学習	ねらい	ESDの視点
道徳的諸価値についての理解を基にする学習	生徒がこれまでの生活経験や多くの人々との触れ合いの中で身に付けてきた道徳的諸価値をもとに、時期や生徒の実態にあった道徳教材との出会いや、他者と関わり合いを通して、改めて自分の道徳的価値について問い直す。	I 有限性 N 公平性 H 多様性 A 連携性
自己を見つめる学習	道徳の授業の冒頭に、自分のこれまでの生活経験を振り返る時間を設けることで、授業の前後での自己の考えの変容を明確にすることができる。	C 責任性
物事を多面的・多角的に考える学習	人との道徳性の違いを認め合うカタリバ活動での対話を通して、自己の道徳性を問い直し、新しい考えに気付くことができる。	S 相互性 H 多様性 A 連携性
自己の生き方についての考えを深める学習	ポートフォリオを作成し、毎回道徳の授業で「思いやり」について振り返ることで、自己の生き方についての考えを深めることができる。	C 責任性 I 有限性 N 公平性

### 3 主題設定の理由

#### (1) 題材観・教材観

本時で扱う「席を譲ったけれど」は、思いやりの気持ちから取った行動を相手に非難されて困惑していることを記した中学生の投稿からなる物語である。思いやりの心をもって人と接するとともに、他者の善意に対して感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めることについて考える内容である。新香山中は岡崎の北にあり、交通は不便である。生徒は、日常生活でバスや電車を使う機会が多く、自分に重ねながら考えることができる教材だと考える。中学生の段階では、相手の立場や気持ちに対する配慮についても理解を深めていくことが大切になる。同級生や先輩との新たな出会いの中で、ものの見方や考え方の多様性を実感する生徒も多く、相手の立場に立って考え、行動することを少しずつ経験し始めている。本教材では、席を譲られたお年寄りの立場で教材の登場人物の気持ちについてカタリバ活動を行うことで多面的・多角的な角度から考え、「思いやり」や「感謝」についての考えを深めていきたい。また、本時については対話する時間を少しでも確保するため、資料の事前読みを行うこととする。

#### (2) 指導観・目指す子供像（含生徒観）

1年5組の生徒は、男子13名、女子20名の33名で構成されている。入学当初の生徒は、新しい環境や人間関係に緊張しながらも、早く中学校生活に慣れようと努力する姿があった。5月に行われた総合体育大会激励会の応援では、当日応援することができない分まで先輩にエールを送りたい気持ちで必死になって練習を行った。伝統だからではなく、同じ学校の仲間だからこそ全力で応援したいという熱い心を伝えた。学校生活における生徒の様子を見ると、男女共に仲が良く、お互いに協力して活動することができる。給食のときや配付物を配るときなど、自分から動くことができる生徒も多い。人に優しくしようと困っている子に手を差し伸べる場面も見られる。しかし、相手の気持ちや立場に対する配慮が足りず、自己中心的に行動してしまう生徒がいる。また、日々の生活の中で、仲間やクラスのために行動していることに気付いているが、感謝の気持ちを伝えたり、共に協力して行動したりしようとしめない生徒もいる。小学校からの学びで「思いやり」が大切なことは知っているが、人を思いやることで自分も他人もどれほど幸せになるのか小単位を通して学びを深めていきたい。

「特別の教科 道徳」の目標に「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」とある。本学級では、①道徳的諸価値についての理解を基にする学習②自己を見つめる学習③物事を多面的・多角的に考える学習④自己の生き方についての考えを深める学習。この4つに大きく分け、道徳性を高めていくためにそれぞれ手だてを講じる。まず、1年での学びを明確にするために小単位を設定した。小単位を「思いやりをもって仲間を大切にする」として、テーマに沿った異なる内容項目を複数時間設定して構築した。さらに、生徒の考えの深まりや変容が振り返られる場として、小単位を一枚にまとめたポートフォリオを作成した。生徒がポートフォリオを見直すことによって、授業内の道徳心の変容だけではなく、小単位を通じた道徳心の変容も問い直すことができ、個人内評価もできる。また、道徳が教科化されるにあたり、「考える」「議論する」というキーワードに注目が集まっている。道徳の授業で生徒が自分自身の生き方を常に見つめていくことを大切にしていきたい。導入では、普

段の自分の考えや言動について振り返る時間を設け、自己の生き方について一人一人が課題意識をもつようにする。そして、生徒が常に自己の生き方を見つめながら、みんなで多面的・多角的な視点から語り合うことを通して、自己のよりよい生き方について模索していくことを重視する。本校の研究でもあるカタリバ活動を通して、一人一人が納得解を目指す。うわべだけのきれいな道徳的価値だけを並べた話し合いではなく、自己の生き方と照らし合わせた、本音で話し合う道徳の授業でありたい。ESDの理念にもある「これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む」自分のため、誰かのために物事を考え、実行できる生徒を育成したい。小単元を通して、生徒の思いやりの心がさらに育まれ、仲間を大切にできる学級になることを願う。

#### 4 指導計画（6時間完了）

##### 小単元のテーマ 「思いやりをもって仲間を大切にする」

	教材名	内容項目	学びのテーマ	他の教科との関連
第1時 (本時)	席を譲ったけれど	B- (6) 思いやり、感謝	思いやりや感謝の心を育てていくために大切なことは何だろう。	特別活動の自他の理解と尊重
第2時	裏庭での出来事	A- (1 1) 自主、自律、自由と責任	自分の行動に責任をもつとは、どういうことだろう。	社会科の自由・権利と責任
第3時	親友	B- (8) 友情、信頼	友達を大切にすることは、どういうことだろう。	特別活動の自他の理解と尊重
第4時	初めての伴奏	C- (1 5) 学校生活、集団生活の充実	クラスで何かを成し遂げるときに大切なことは何だろう。	特別活動の集団生活の向上
第5時	やっぱり樹里は	C- (1 1) 公正公平、社会正義	正義や公正さについて考えよう。	特別活動の集団生活の向上
第6時	銀色のシャーペンシル	D- (2 2) よりよく生きる喜び	心の弱さを乗り越えさせるものとは、何だろう。	特別活動の自他の理解と尊重

#### 5 単元の評価のポイント

- ・教材やクラスの話し合いを通して、思いやりの表し方や受け取られ方は多様であることや、思いやりの行動を取ることをのよさや難しさなど、思いやりについて多面的・多角的な見方へと発展したか。
- ・教材とこれまでの自分の考えを比較するなどして、思いやりや感謝の心にあふれた温かい人間関係を築いていくことについて、考えを深めたか。

#### 6 本時の学習指導

##### (1) 本時のねらい

思いやりや感謝の心を育てることについて考えさせ、他者に思いやりの心をもって接していこうとする心情を育てる。

##### (2) 準備

- ① 生徒 教科書、ポートフォリオ、タブレット、筆記用具
- ② 教師 板書用資料、ホワイトボード（グループ分）、ペン

##### (3) 育成するESD能力と評価のポイント

学習	活動段階	評価のポイント	育成するESD能力
自己を見つめる学習	4	自分のこれまでの生活経験を振り返りながら、自分事として学習を進めることができる。	⑦進んで参加する態度
物事を多面的・多角的に考える学習	5	スクールタクトを利用しながらカタリバ活動での対話活動を行うことで、自己の道徳性を問い直し、新しい考えに気付くことができる。	①批判的に考える力 ③多面的、総合的に考える力 ⑤他者と協力する態度
自己の生き方についての考えを深める学習	8	授業の終わりに思いやりの心をもって他者と接するのはどういうことか個人の意見をポートフォリオにまとめることができる。	⑥つながりを尊重する態度

## (4) 展開

段階	生徒の活動	教師の活動
導入 (3)	1 相手のことを思いやって行動した経験はあるか尋ねる。	・前向きに捉えて考えられるように「考えさせられる経験だね」などと相づちを打つようにする。
問題 (2)	2 本時の学習課題を把握する。	・学習課題を板書する。
	<b>思いやりの心をもって他者と接するとは、どういうことだろう。</b>	
課題把握 (10)	3 教師が黒板に貼るキーワードを見ながら、あらすじを確認する。  4 「あなただったら席を譲りますか」という発問に対する自分の考えをスクールタクトに記入する。	・p 46, 47「事前読み」をしていることから、キーワードを絞って、簡潔にあらすじを確認する。中心ワードは目立つ色になるよう工夫する。 ・スクールタクトで意見が書けるように準備しておく。 ・自己を見つめるために、タブレットに自分の考えを書く時間を設ける。
追究 (25)	5 チーム学習で、自分の意見を同じグループの生徒に伝えながら、中学生とおじいさんの気持ちに迫る。 ・おじいさんなど、年配の方がいたら席を譲る。何か言われようが、思いやりをもって行動することが大切だと思う。 ・この話のように、迷惑だと思う人も世の中にはいるから私は席を譲らない。 ・「座りますか」など言い方を変えて席を譲る。 6 学級全体で、中学生の気持ちの変化やおじいさんの考えを予想し、板書で考えを確認しながら、思いやりについての考えを深める。 <u>中学生</u> ・思いやりをもった行動をすることが大切だと思っていた。 ・怒られるとは思わなかった。よいことをしたと思った。 ・親切にして損した。 <u>おじいさん</u> ・おじいさん扱いされて嫌だった。 ・気をつかわれたくなかった。 <u>中学生はどうしたらよかったか</u> ・おじいさんの考えや思いも考えて行動しないといけなかったのかな。 ・難しい問題だけど、悪いことをしているわけではない。ありがとうって言ってくれる人もいる。 7 席を譲る場面についてグループで役割演技を行う。他者の立場や気持ちを考えて思いやりを表すことの疑似体験を行う。 8 思いやりの心をもって他者と接するために必要なことは何か個人で考えた後、グループで意見をまとめ、発表する。 ・他者の気持ちや考えをもっと知ること。 ・自分の価値観ばかりを押し付けないこと。	・思いやりについて多面的に考えられよう「もう少し詳しく教えて」や「なぜそう思ったの」と聞くように助言する。 ・スクールタクト内にある他の人の意見について考えるように指示する。また、スクールタクト内の気になる意見がある場合は、グループを合流させて対話するよう指示する。 ・全体で中学生が席を譲る前後の気持ちを板書でまとめる。 ・中学生だったら、おじいさんだったらと立場を変えながら思いやりについて考えを深めるようにする。 ・相手の配慮や、「思いやり」と「感謝」の関連、相手を思いやることのよさや難しさなど、さまざまな見方を交流させて、考えを深めていく。 ・気持ちの整理ができたところで「中学生はどうしたらよかったと思いますか」と発問する。 ・「私は譲れない」という意見が出たときは、言い方を変えたり、無言で立ったりなどよりよい方法はないのかという違う視点を与える。 ・最初に教師と級長で手本を見せる。 ・声のかけたときと、声をかけられたときとで、どんなことを感じたか感想を伝えあうように指示する。 ・チーム学習の際、必ず全員の意見を言うてから意見をまとめるように指示する。 ・ホワイトボードを用紙し、まとめた意見を書くように指示する。
整理 (10)	9 本時の振り返り、ポートフォリオに記入する。 ・自分の善意が伝わらないこともあるが、困っているひとは助けたいので、やはり思いやりの気持ちをもって行動することが大切だと思った。 ・相手がどんな人か、どんな考えをもっているか、善意だと思ったことが迷惑になっていないか、もっと考えて行動できるようになりたい。	・授業の最初と現在の自分の気持ちの変化を中心にポートフォリオに振り返るように指示する。 ・机間指導を行いながら、特徴的な意見を吸い上げ、発表時に意図的指名をする。そうすることで、さらに多様な考えを受け入れ、納得解を深められるようになる。